



# 中四国 いんぶんめ〜しょん

2019年6月  
第27号

企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619  
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター



## 近年の献血・供給状況について

中四国ブロックと全国の献血・供給状況を示します。

血液製剤の供給について特筆すべきは、血小板製剤が全国的にはこれまでほぼ横ばいであったのが、平成30年度にやや減少したこと、血漿製剤が全国・中四国ともに平成30年度に激減したことです(図1)。

献血者数は全国的には毎年2~3%ずつ減少し続けていますが、中四国ブロックでは平成30年度は前年度の数をほぼ維持することが

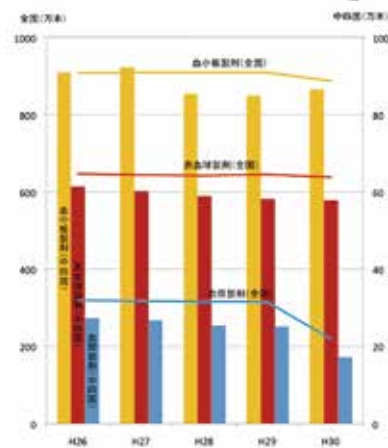
できました(図2)。献血の申込をしてくださった方の12~13%は問診や事前検査により献血不適格となり、平成30年度の献血者総数は全国で4,735,944人、中四国ブロックでは426,405人でした。男女別では、男性が全国・中四国ブロックともに20代・30代の減少が顕著であり(図3)、女性は全国・中四国ブロックともに、20~40代で年々減少しています。

平成30年度は10代が全国・中四国ブロックともに前年度数を上回りました(図4)。

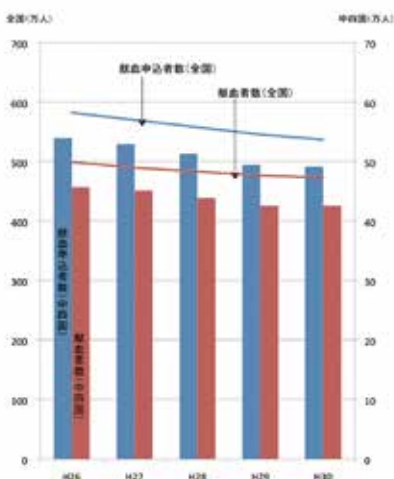
供給状況とその予測に基づいた献血計画を実行し、若い方の献血への理解と協力を得ることにより、輸血用血液製剤の過不足が起らないように、努力し続けてまいります。

輸血用血液製剤の使用量は減少傾向にありますが、血漿分画製剤の需要は増加傾向にあり、皆様には引き続き献血へのご協力をよろしくお願いいたします。

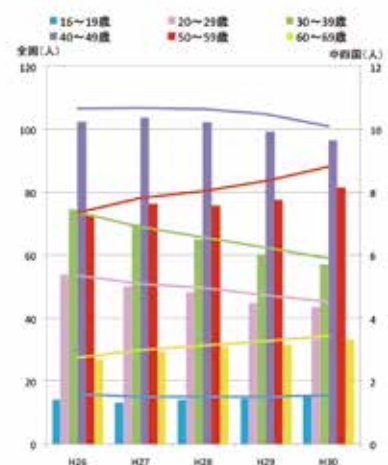
(中四国ブロック血液センター 需給管理課 加藤圭一郎)



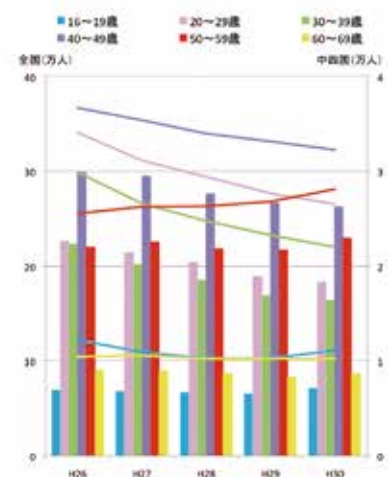
【図1】血液製剤の供給本数(換算本数)



【図2】献血状況



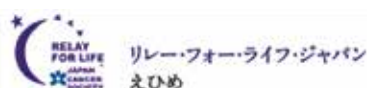
【図3】年代別献血者数(男性)



【図4】年代別献血者数(女性)

## 愛媛センターでの「もっともっとクロス」

愛媛センターでは採血課・献血課・供給課などの職員が毎年『リレー・フォー・ライフ』というイベントに参加しています。このイベントはサバイバー（がん患者、がん経験者）と家族を含む様々な立場の支援者達（ケアギバー）と一緒に襷をつなぎながら24時間交代で歩き、がん征圧への願いを新たに、絆を深め合う催しで、「がんは24時間眠らない」、「がん患者は24時間がんを闘っている」という想いを共有し支援することを目的にアメリカで始まり、現在世界約30か国、約4,500か所で開催されています。日本におけるリレー・フォー・ライフは2006年に茨城県つくば市で初開催され、愛媛県では2010年から『リレー・フォー・ライフえひめ』が行われています。私が病院勤務をしていた時にこのイベントに参加していたことがきっかけで、血液センターに異動となった後にも所内で有志を募り参加し続けています。



2018年は9月29日（土）～30日（日）で開催が予定されていましたが、大型台風接近のため9月29日（土）に松山市城山公園で17～20時と時間短縮での開催となりました。

我々血液センターの使命は、過不足なく採血を行い、検査・製造し、安全な血液を安定的に輸血を必要とする患者に届けることです。普段は患者と直接接触する機会はありませんが、このようなイベントに参加し、襷をつなぎながら交代で歩き続けることで不思議な絆が生まれ、血液センター職員だけでなく、医療関係者・患者と「もっともっとクロス」しなければ!という思いが湧き上がってくるのを感じました。

医療の進歩に伴い血液の使用量は減少していますが、血液のがんなどの治療には、まだ多くの輸血用血液が必要です。輸血用血液を必要とする患者に安全な血液を安定的に届けるために私たち血液センターの看護師は、献血者の皆様が安心していただける採血を目指すことで次に襷をつなげられるよう、これからも努めていきたいと思えます。

（愛媛県赤十字血液センター 採血課 白石洋子）

